

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270200967		
法人名	社会福祉法人 七峰会		
事業所名	グループホームアップル		
所在地	〒036-8302 青森県弘前市高杉字尾上山349		
自己評価作成日	平成26年8月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームの周りに果樹、野菜、畑を作り、生活の継続が出来る環境があり、育てる、収穫、食べる等の楽しみがある。一人ひとりの状態に応じた役割を持ち、生きがいと自信が持てるように支援をしている。水分、栄養、排便、歩行、運動をベースに自立支援に取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは、緑豊かなりんご園に囲まれた環境の中にあり、入居者は入居前からの生活の継続として野菜作りと収穫の楽しみを持って生活されている。職員も法人の特別養護老人ホームの体験者が多くあって、認知症の理解が深く、対応が穏やかで有用感と活力のある生活をめざしての取り組みが実践されている。個別のケアプランに基づいて、リハビリや認知症緩和活動として学習療法(計算、音読、間違い探し等)、日常の中での役割分担がきちんとプログラム、実施されており、入居者自身の達成感、満足感と生活意欲の向上に繋がっている。ともに寄り添い自立支援に向けて取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日3回の引き継ぎ時に確認し合っている。また、地域への会報による啓発活動を行って職員の意識を高め実践に取り組んでいる。	一日3回の引き継ぎ時にグループホーム独自の理念を唱和し、職員に常に意識付けし共有している。その人らしい、活力ある日々の生活と地域に開かれ、ともに歩む事を理念として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域交流の機会を設け、地域の方々と交流を深める機会を作っている。また、保育所・公民館・児童館の行事にも参加する機会を作ったり、公民館まつりへ入居者の作品展示し参加・見学する機会を作っている。	定期的に保育園の訪問を受け交流を図ったり、保育園の夏祭りへ出向いたり、地元の公民館祭りへ作品を展示・見学したりと積極的に外に出る機会を作っている。又、法人全体での納涼祭や敬老の日の行事にも参加して地域の人たちとの繋がりを持っている。廊下で繋がっているデイサービス利用者とは日常的に交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々定期的に会報の回覧・掲示をし、地域交流をした際に理解をして頂けるように取り組んでいる。また、運営推進会議への参加協力をして頂き理解を図っている。SAHグループ全体で地域に向け認知症サポーター講座も開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、町会長や家族代表、民生委員などに参加して頂き、取り組みやサービス内容について報告し、意見や要望を聞き、サービスの向上につなげる場としている。	地域の3町会の会長、民生委員、家族、地域包括支援センターの職員が参加し、2ヶ月に1度実施している。グループホームの取り組みについて報告し、意見要望等を話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡及び常に行き来が出来る機会を作り、サービスの質向上に取り組む姿勢でいる。	介護保険についての確認など必要に応じ連絡を取り情報共有を図っている。困っているケースなどは地域包括支援センターを活用しサービス向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修を実施しており、禁止の対象となる行為について全職員が認識している。また、具体的な例を取り上げ実践ケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。グループホーム内での引き継ぎの時間を利用し研修を行っており、身体拘束をしないケアについて職員の意識統一がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について内部研修を実施しており、入居者の方が安心して生活を送って頂ける様最新の注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について内部研修を実施しており、必要となる者がいる場合は活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に明示しており、入居時に説明を行い、理解・納得の上同意を得ている。また、改定事項があった際は連絡・説明をし、理解・納得を図る体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日常のコミュニケーションの中から意見を拾い上げたり茶話会や個別で意見を聞く機会をもっている。また、ご家族からは面会や、運営推進会議などでご意見を聞く機会を設け、反映させている。	普段のコミュニケーションの中から意見を拾い上げたり、月2回の茶話会の時間に意見を聞く機会をもうけている。ケアプラン更新時は家族にアンケートを送付し、意見を頂いてサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き継ぎ時間を中心について職員意見や提案を聞ける体制を作っている。その中で反映できる事は実施している。	連絡ノートを活用し、情報共有と意見交換を行なっている。又、1日3回の引き継ぎ時に、情報を提供し職員からの意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日誌や口頭で職員からの報告・相談などを受け現状を把握し、必要に応じて適切なアドバイス、話し合いをする場を設け、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の研修予定計画をたて、個人の職員に対し必要な研修の機会を設けている。また、内部研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修での実習受け入れや研修などで交流する機会がある。また、同法人グループホームとの会議もありサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受入れ時より、本人が困って居る事や不安・要望などについて聞いている。利用開始後は信頼関係の構築と共にコミュニケーションの場を多く設け、本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に家族が困って居る事や不安・要望について聞いている。また、入居者から家族を通しての不安・要望なども聞き入れている。誤解などのある時は説明をしている。そして、常時GHの見学も受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見や思いを聞きだし、できるかぎりニーズに沿った支援を行い、状況の変化に応じてカンファレンスを行い必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に対し尊厳をもって接し菜園での野菜作り・料理・おやつなども一緒に作り・食し同じ生活環境でともに支え合って暮らしていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告・連絡・相談を密にしながら、本人の安心・安全を守り、本人の想いを大切にして、生活に心配なく生きがいのある暮らしが出来るように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や相手側の希望があればいつでも面会が出来る体制である。自宅への訪問やかかりつけの病院への受診、馴染みの店や理容所等の外出も支援している。	家族が散髪する方を除いて、馴染みの理容店に出掛けて関係作りを支援している。又、かかりつけ医への定期受診の継続を配慮し、一人一人の生活習慣を尊重し取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握しており茶話会や全体活動を通じて、一人ひとりが孤立しないよう職員が介入し、入居者同士の関わり合いが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同グループ施設への転居した後や入院した際も面会しており本人やご家族との関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望・ニーズの把握に努め、ケアプランに反映できるものはプランに取り組み、生活に心配なく生きがいのもてる生活を継続できるように支援している。	月に2回の茶話会と日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させている。希望者には自宅に面会を兼ねて訪問支援したり、入居者の思いを汲んだ対応を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を基にアセスメント表を使用し、これまでの経過を把握し出来るだけ今までと変わらない生活が継続できるように支援している。また、日常会話からの情報や回想・ご家族の面会時に情報を得て対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日常生活動作や日々の心身の状態に合わせ、その方らしい生活が出来るよう職員が情報を共有し、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向及び現状を踏まえカンファレンスを行い計画を作成している。家族へはアンケートや面会時に話し、計画に反映している。	普段の会話の中から本人の意向を読み取り連絡ノートを活用し、本人の状態、希望を考慮しながら計画に反映させている。家族については面会時及びアンケートで意向を確認し計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が日々の様子などについて個別に記録に残し、その情報を共有できる体制である。また、随時ミーティングを行い実践の変更や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、役所関係、自宅訪問、買い物等入居者及び家族のニーズに適した対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や地元の行事に積極的に参加している。また、広報などで催し物があった場合は参加できる配慮をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に定期受診している。体調不良等の際は電話連絡などを行い状況に応じて受診している。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。必要に応じて家族にも同行して頂いており、日頃の様子を伝えるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、入居者の方の状況を伝え、健康管理を行っている。また、助言など気軽に受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、お見舞いを兼ねて病院関係者と情報を共有し、安心して治療が受けられるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針がありその基づいた対応をしている。	入居時に指針について説明しており、状態が変わるたびに家族との話し合いを持っている。併設の特別養護老人ホームとも情報共有をして紹介するなどの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受け、内部研修も行っている。また、マニュアルがあり随時見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設や法人他施設が近隣にあり、母体施設を中心に協力が得られるようになっている。また、地域住民との連絡体制も築いている。	年に2回独自での避難訓練を行っており近隣の住民にも連絡協力を要請し実施している。又、母体施設と共同での訓練も年2回行っており非常時の協力が得られる体制が出来ている。職員の緊急の連絡網があり、年に1回訓練を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声掛けや尊厳をもった対応を心掛けている。記録に関してはプライバシーの保護の観点からも配慮して対応している。	自尊心を傷つけないように、声のトーン等も配慮して実施している。記録などは入居者の目の届かない所で実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中などで本人の思いや要望を聞きだすよう心掛けている。自己決定が出来る様働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧や整容に関しては自分で出来る環境づくりをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好をある程度把握し、情報を共有している。準備、片付けなどは入居者とともにやっている。	昼食は選択食となっており、その都度食べたいものが食べられるように配慮されている。食事の準備や後かたづけも入居者と共に行っている。職員も一緒にコミュニケーションを図りながら食事を取り、雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、1人ひとりの摂食、摂水量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者に関しては確認をしている。介助が必要な方に関しては状態に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人ひとりの排泄リズムに合わせて声がけ及び誘導を行い、成功確率の上昇に努めている。	オムツ外しを行っており、排泄チェック表を活用し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便観察を行っている。水分、運動、食事などを工夫し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	順番や時間帯、体調面など1人ひとりの希望や様態に合わせて対応している。希望に応じてシャワー浴や足浴も随時対応できる体制である。	個々の希望に合わせて最低でも週3回、9時～16時の間に入浴できるよう配慮している。又、個浴で対応し本人が安心して入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動性を持たせて夜間の安眠につながるよう支援している。日中帯に関しても体調に応じて休息できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬成分表をファイルにしており、いつでも確認できるようにしている。服薬の際は、誤薬に注意して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って自主的に行っている。畑作業や花壇の手入れなど、趣味活動や余暇活動等の楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によりドライブや買い物、余暇外出などの支援を行っている。また、自宅訪問などの個別の外出も家族の協力を得ながら行っている。	食材・衣類の買い出しは、馴染みのショッピングセンターへ出かけ、自宅への外出支援、かかりつけ医への定期的な受診やドライブ、地域の行事参加など外出する機会を積極的に設けて実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの能力に応じた支援を行っている。物品購入の際は、本人に財布を渡しレジ清算を任せている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自宅に電話をしたり要望に応じて対応する。手紙でのやり取りも継続して行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園内に利用者が作成した制作物などを飾り、季節感を感じて頂ける様配慮している。行事や外出先での写真を飾っている。換気を行い、温度湿度管理に努めている。	廊下に保育園児たちとの交流会の写真や、行事に参加した写真等、歩きながらいつも見られるように掲示しており、入居者に安心感を与えている。又、ホールには入居者の手工芸作品が随所に飾られ、居心地良く過ごされている。換気と温湿度計で快適な環境づくりに配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはTVやビデオ、ソファを設置し、畳には座卓を置き読書をしたりできるスペースがある。また、新聞雑誌等を定期購読しておりいつでも見れる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブル椅子を自宅より持参したり、家族の写真などで装飾したりと、本人に合った居心地のよい空間である様工夫している。	筆筒や椅子等、馴染みの家具を持ってきており、家族の写真や自身の手工芸品を飾って居心地の良い居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳やフローリング、布団、ベッド、洗濯干し場、ベンチ、手すりなどを設置し、一人ひとりの能力、機能を活かし安全で自立した生活が送れるよう支援している。		